

平成19年度

第2回区政モニターアンケート
調査報告書

《 足立区の防災まちづくりについて 》

平成19年7月

足立区政策経営部区政相談課

目 次

調査の概要	2
要 旨	4
問 1 防災への関心度	6
問 2 住んでいる地域の安全度	6
問 3 住んでいる地域の「危険」とは	7
問 4 足立区で危険と思われる地域	7
問 5 地域防災拠点の認知度	8
問 6 状況に応じた避難の仕方の認知度	8
問 7 状況に応じた避難に仕方について知ったきっかけ	9
問 8 防災生活圏整備の計画の認知度	9
問 9 大地震への備えとして、誰が何を行うべきか	10
問10 住宅耐震診断や耐震補強支援制度の認知度	10
問11 住宅耐震診断や耐震補強支援制度の活用度	11
問12 今後区に希望する取組み	11
問13 防災まちづくりをしていく上で必要なルール	12
問14 地震対策としてできること	12
問15 避難所運営委員会の活動の認知度	13
問16 足立区の防災まちづくりについて（自由意見）	14
調 査 票	20
集 計 表	26

1 調査の概要

この報告書は、平成19年度第2回区政モニターアンケート「足立区の防災まちづくりについて」をまとめたものです。

2 調査目的

当区の「地域防災総合計画」の一部を担う「足立区防災まちづくり計画」について今後改定を行うが、これにあたっては、上位計画との整合を図るとともに、区民や事業者と協働で防災まちづくりを進めていく。その観点から、区民の皆様が日頃感じている感想や意見を聞き、計画の策定の参考とする必要があるため。

3 実施時期

平成19年7月24日～8月6日

4 対象者数、回答者数

対象者 160人 回答者 151人

5 調査方法（調査票の送付・送信方法と回答者の人数）

・郵便 119人 ・インターネット 32人

6 回答者の構成

（1）地域ブロック・男女・調査方法別

	1ブロック			2ブロック			3ブロック			4ブロック			5ブロック		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
郵便	3	17	20	0	6	6	2	6	8	1	5	6	3	10	13
インターネット	2	0	2	1	2	3	0	1	1	2	1	3	0	2	2
合計	5	17	22	1	8	9	2	7	9	3	6	9	3	12	15

	6ブロック			7ブロック			8ブロック			9ブロック			10ブロック		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
郵便	2	11	13	1	3	4	2	6	8	0	7	7	3	6	9
インターネット	1	5	6	0	2	2	0	2	2	0	1	1	1	0	1
合計	3	16	19	1	5	6	2	8	10	0	8	8	4	6	10

	11ブロック			12ブロック			13ブロック			合計		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
郵便	3	6	9	0	7	7	1	8	9	21	98	119
インターネット	2	3	5	2	0	2	0	2	2	11	21	32
合計	5	9	14	2	7	9	1	10	11	32	119	151

(2) 年代・男女・調査方法別

	20代			30代			40代			50代			60代		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
郵便	1	6	7	2	36	38	1	17	18	1	22	23	9	10	19
インターネット	1	7	8	2	8	10	2	5	7	2	0	2	1	0	1
合計	2	13	15	4	44	48	3	22	25	3	22	25	10	10	20

	70代			80代			合計		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
郵便	7	7	14	0	0	0	21	98	119
インターネット	3	1	4	0	0	0	11	21	32
合計	10	8	18	0	0	0	32	119	151

(3) 職業・男女・調査方法別

	パート・アルバイト			学 生			自営業・家族従業			主 婦			常 勤		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
郵便	1	19	20	0	0	0	2	3	5	0	57	57	6	14	20
インターネット	0	3	3	1	0	1	2	1	3	0	11	11	3	3	6
合計	1	22	23	1	0	1	4	4	8	0	68	68	9	17	26

	無 職			合 計		
	男性	女性	計	男性	女性	計
郵便	12	5	17	21	98	119
インターネット	5	3	8	11	21	32
合計	17	8	25	32	119	151

7 調査結果・分析の見方

回答の比率(%)は、その設問の回答者を基礎として算出しました。従って、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えます。また、原則として小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示したもので、比率の合計が、100%に満たないまたは上回ることがあります。

記述意見は、原文の趣旨を損なわないように要約し掲載しました。

要 旨

特に指定のない限り151人に聞きました。

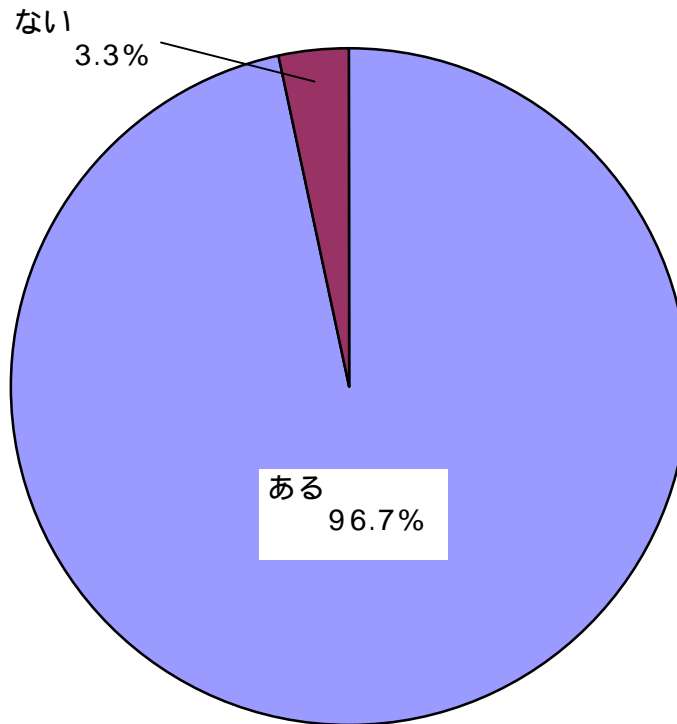
問 1 「防災」への関心度	ある	96.7%	(146人)
	ない	3.3%	(5人)
問 2 住んでいる地域の安全度	どちらかといえば危険	32.5%	(49人)
	安全とも危険ともいえない	28.5%	(43人)
問 3 住んでいる地域の「危険」とは(複数回答、68人中)	地震	92.6%	(63人)
	火災	63.2%	(43人)
問 4 足立区で危険と思われる地域(複数回答、150人中)	千住地域	77.3%	(116人)
	興野・本木地域	30.0%	(45人)
	梅田地域	30.0%	(45人)
問 5 地域防災拠点の認知度	知っている	70.2%	(106人)
	知らない	29.8%	(45人)
問 6 状況に応じた避難の仕方の認知度(150人中)	一時避難場所に集まることは知っている	40.7%	(61人)
	いざとなったら、一時避難場所から 広域避難場所に避難することは知っている	30.7%	(46人)
問 7 状況に応じた避難の仕方について知ったきっかけ(120人中)	町会・自治会	47.5%	(57人)
	あだち広報	33.3%	(40人)
問 8 防災生活圏整備の計画の認知度	知らない	92.7%	(140人)
	知っている	7.3%	(11人)
問 9 大地震の備えとして、誰が何を行うべきか	区ができることとできないことを明確にし、 住民がなすべきことは何か伝える	49.0%	(74人)
	公共施設整備は区が、建物の不燃化等は住民が責任を持って行う	29.1%	(44人)

問 1 0	住宅耐震診断や耐震補強支援制度の認知度			
		知らない	66.2%	(100人)
		知っている	33.8%	(51人)
問 1 1	住宅耐震診断や耐震補強支援制度の活用度(50人中)			
	耐震補強に費用がかかるので利用していない		46.0%	(23人)
	我が家には必要ない		38.0%	(19人)
問 1 2	今後区に希望する取組み(複数回答)			
	木造住宅が密集したまちの改善		47.0%	(71人)
	狭い道(細街路)の拡幅・整備		37.7%	(57人)
問 1 3	防災まちづくりをしていく上で必要なルール(複数回答)			
	建築物の防火性のルール		79.5%	(120人)
	塀や柵の構造や高さのルール		46.4%	(70人)
問 1 4	地震対策としてできること(複数回答)			
	一時集合場所や広域避難場所の確認、			
	家族の緊急時の連絡方法等の確認		91.4%	(138人)
	家具の転倒防止		90.7%	(137人)
問 1 5	避難所運営委員会の活動の認知度(149人中)			
		知らない	63.8%	(95人)
		知っている	36.2%	(54人)

問 1 6 は記述回答のため割愛

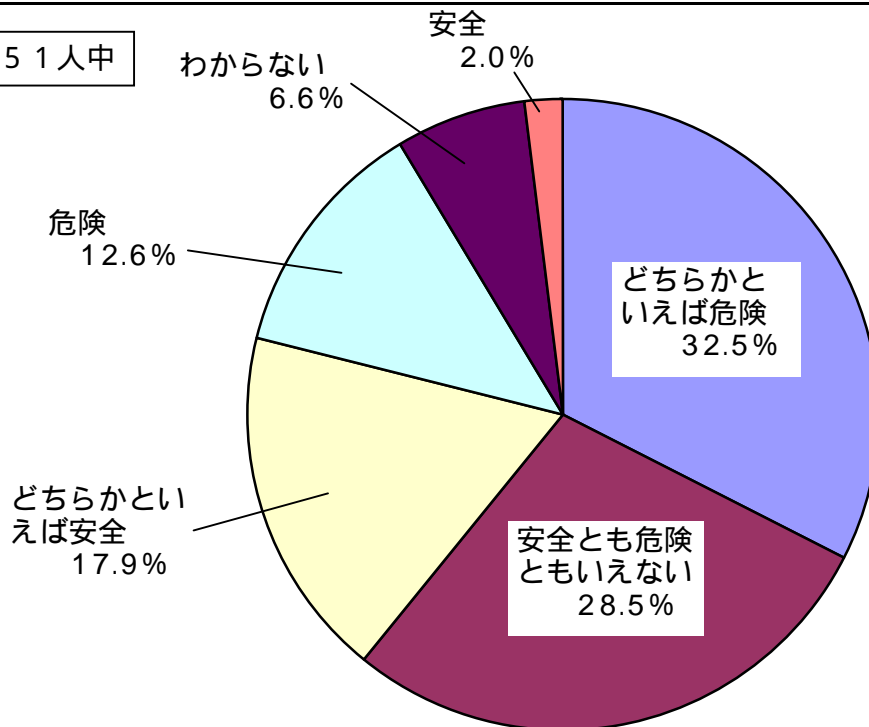
問1 あなたは、「防災」について関心がありますか。
(__ は1つだけ)

151人中



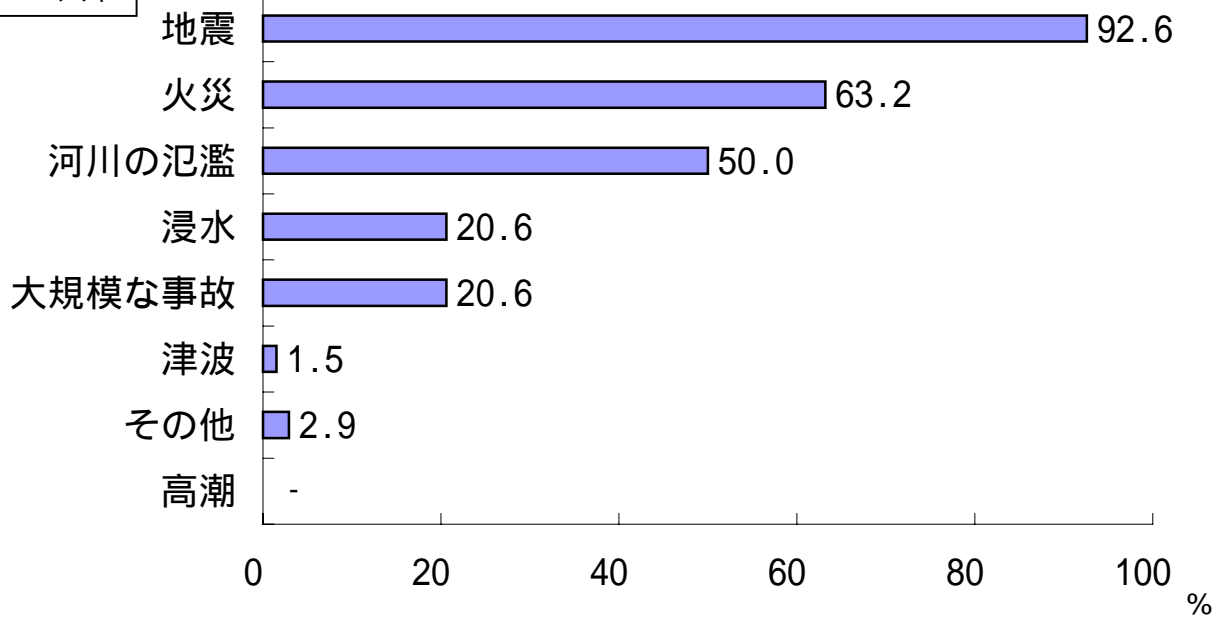
問2 あなたの住んでいる地域は、安全だと思いますか。
(__ は1つだけ)

151人中



問3 問2で(4)「どちらかと言えば危険」、(5)「危険」と回答した方にお聞きします。その危険とは以下のどれだと感じていますか。3つまで選んでください。(__ は3つまで)

68人中

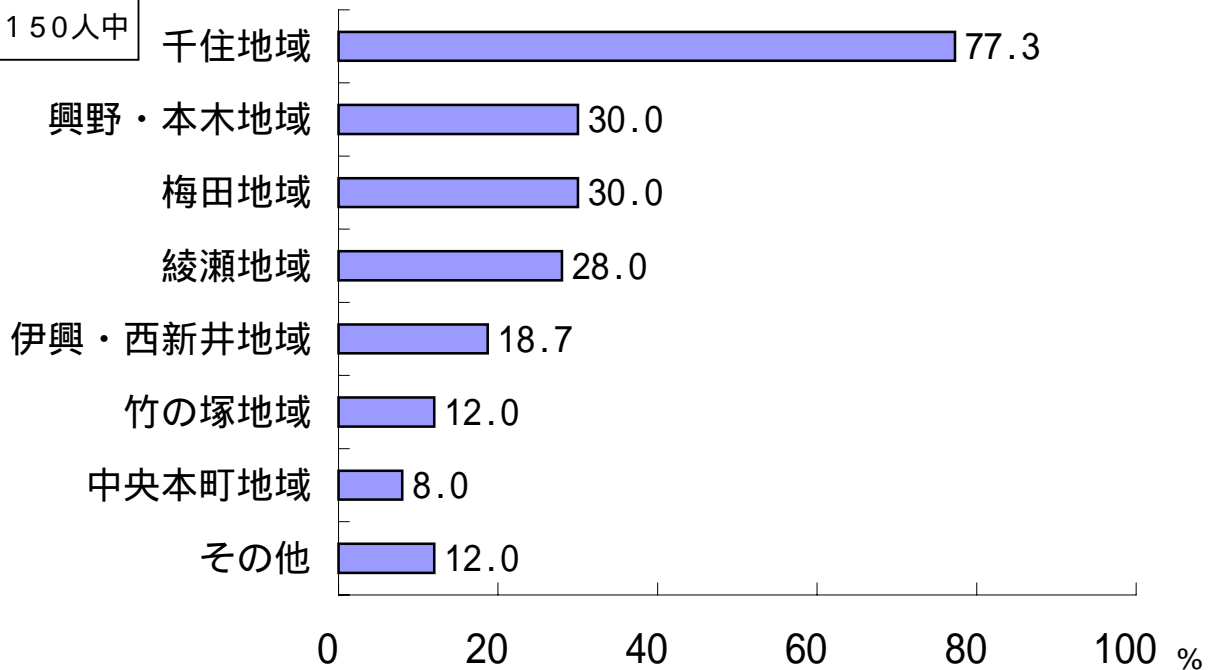


その他

・自動車道における子どもの危険・地盤の低さ

問4 足立区で危険と思われる地域はどのあたりだと思われますか。以下の地域から3つまで選んでください。(__ は3つまで)

150人中

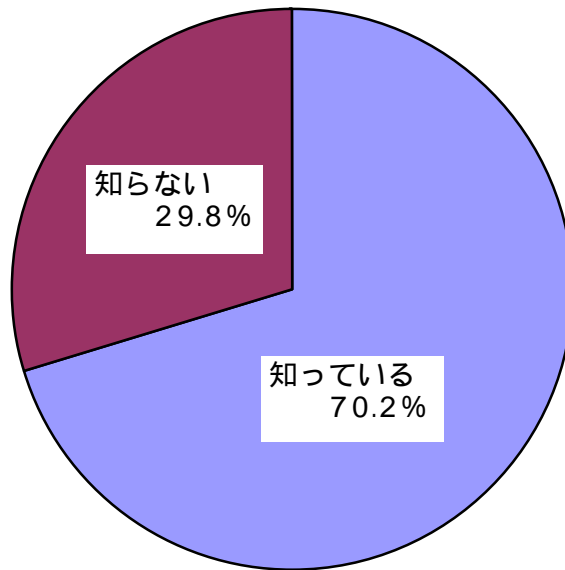


その他

・わからない・特定できない・区内全域・大谷田地域・中川地域・東武線、千代田線沿線・小台地域・青井地域・関原地域・荒川沿い・平野地域・鹿浜地域

問5 震災時に避難するご自分の地域防災拠点（広域避難場所）を知っていますか。
（ は1つだけ）

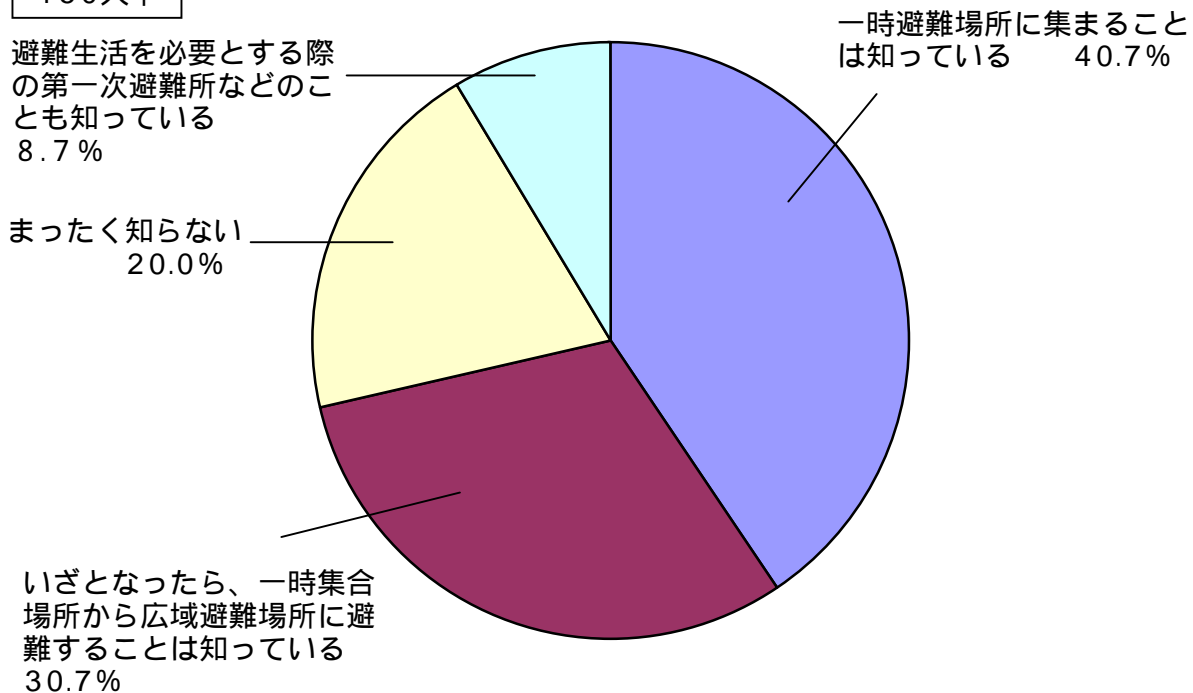
151人中



問6 震災時は、状況に応じて、一時集合場所（自宅にいるのが危険な場合、集団で避難するために、町会・自治会単位で、一時的に集まる場所です。）や広域避難場所（大地震等でより大規模な火災が発生した場合に、その輻射熱や煙等から身を守るための場所です。）あるいは第一次避難所（家屋の倒壊等により自宅に戻れない場合に、避難生活を送るための場所です。）に避難をします。

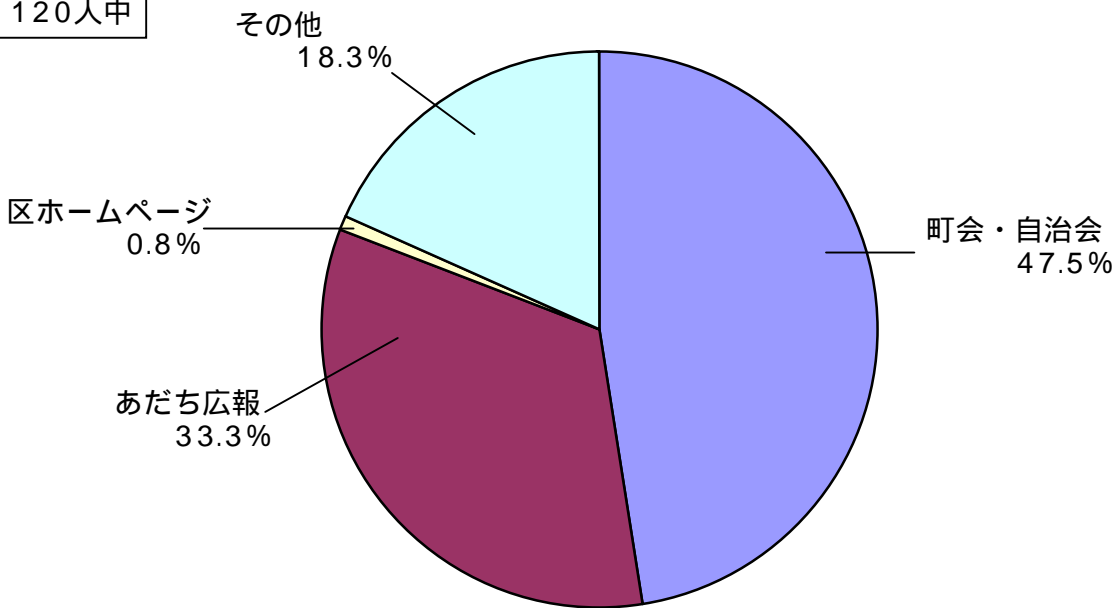
状況に応じた避難の仕方を知っていますか。（ は1つだけ）

150人中



問7 問6で(1)(2)(3)と回答された方、すなわち、一時避難場所や広域避難場所あるいは状況に応じた避難の仕方を知っている方にお聞きします。
 どのような方法でお知りになりましたか。(〃は1つだけ)

120人中

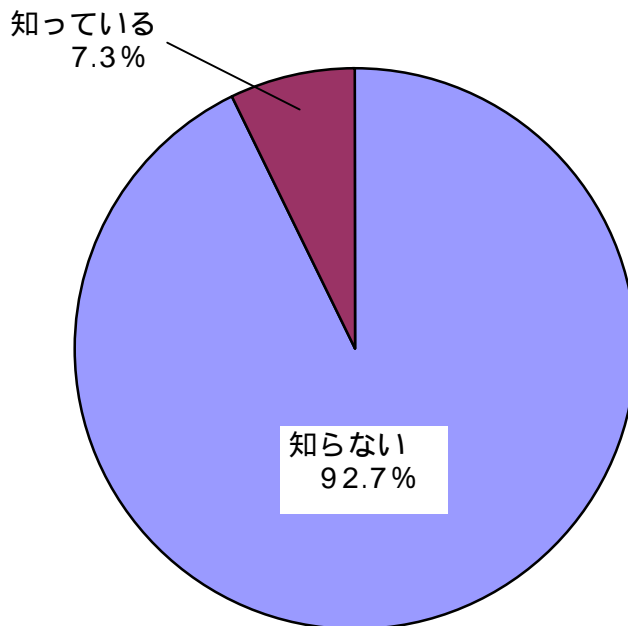


その他

・子どもの学校からのお便り、資料・学校の授業で習った・保育園での説明会で知った・公園に立っている看板で知った・足立区防災マップ・わたしの便利帳・家での会話で知った・友人との会話で知った・テレビ番組

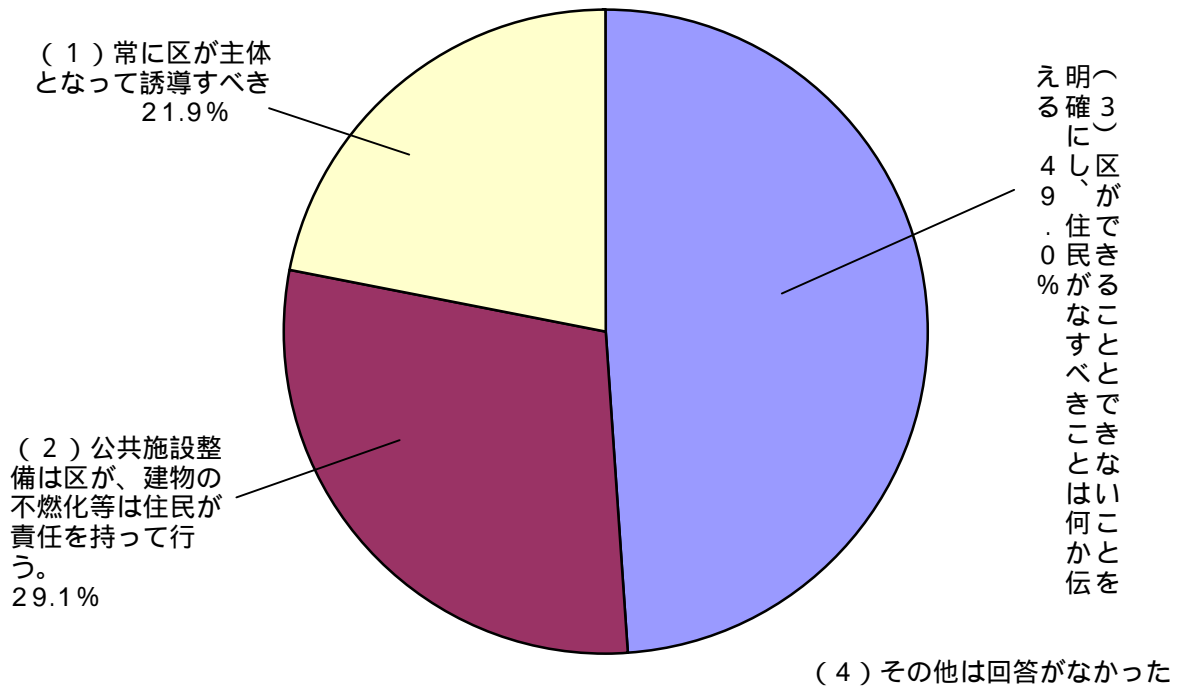
問8 大地震が発生したときの延焼火災を防ぐために防災生活圏整備(下図参照)を推進していますが、この計画を知っていますか。(〃は1つだけ)

151人中



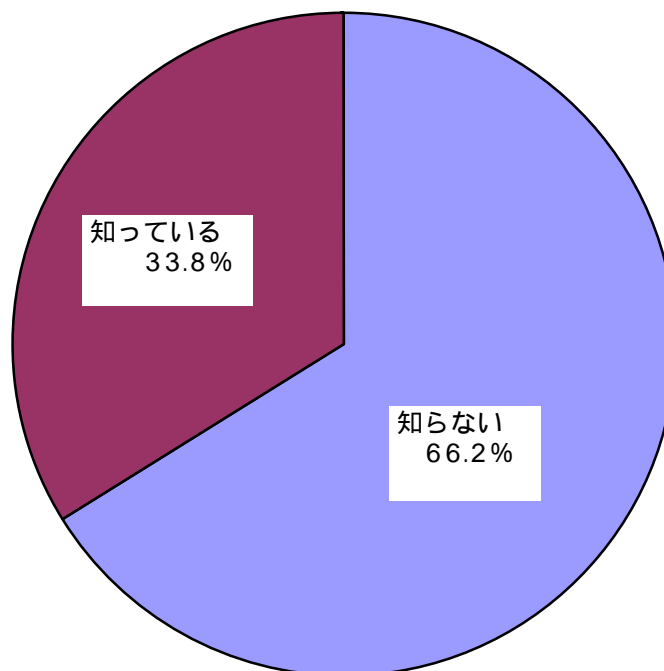
問9 大地震への備えとして、誰が何を優先的に行っていくべきだと思いますか
(__ は1つだけ)

151人中

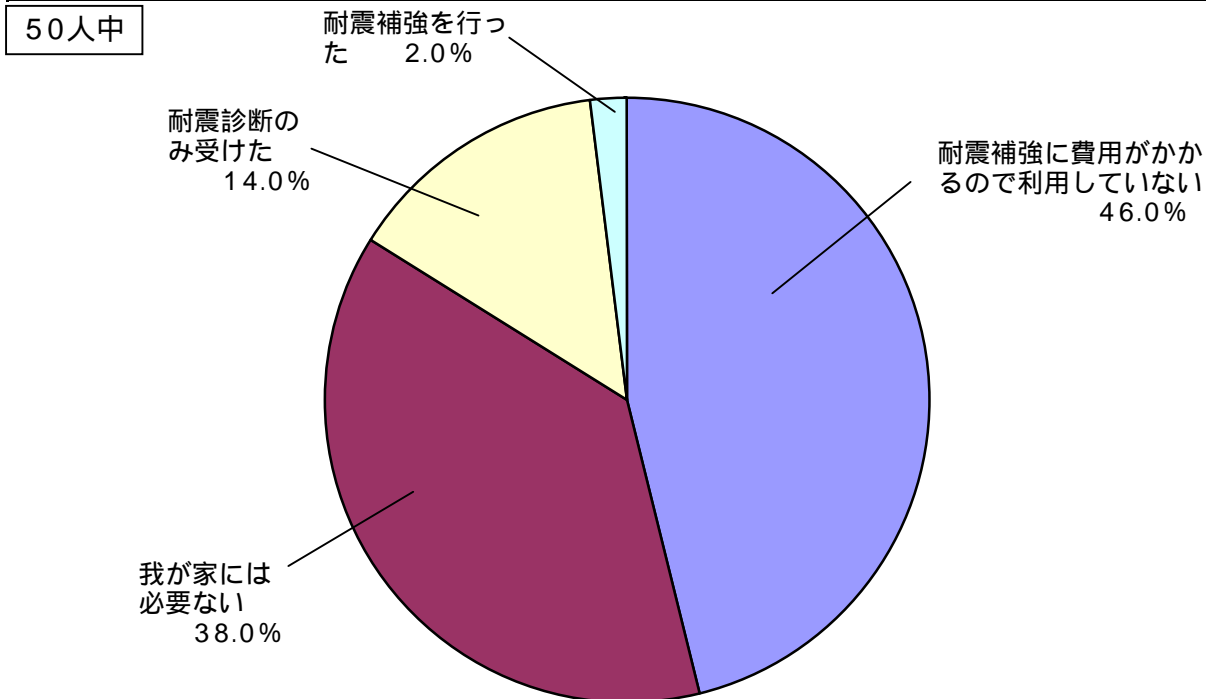


問10 足立区で行っている住宅の耐震診断や耐震補強への支援制度を知っていますか
(__ は1つだけ)

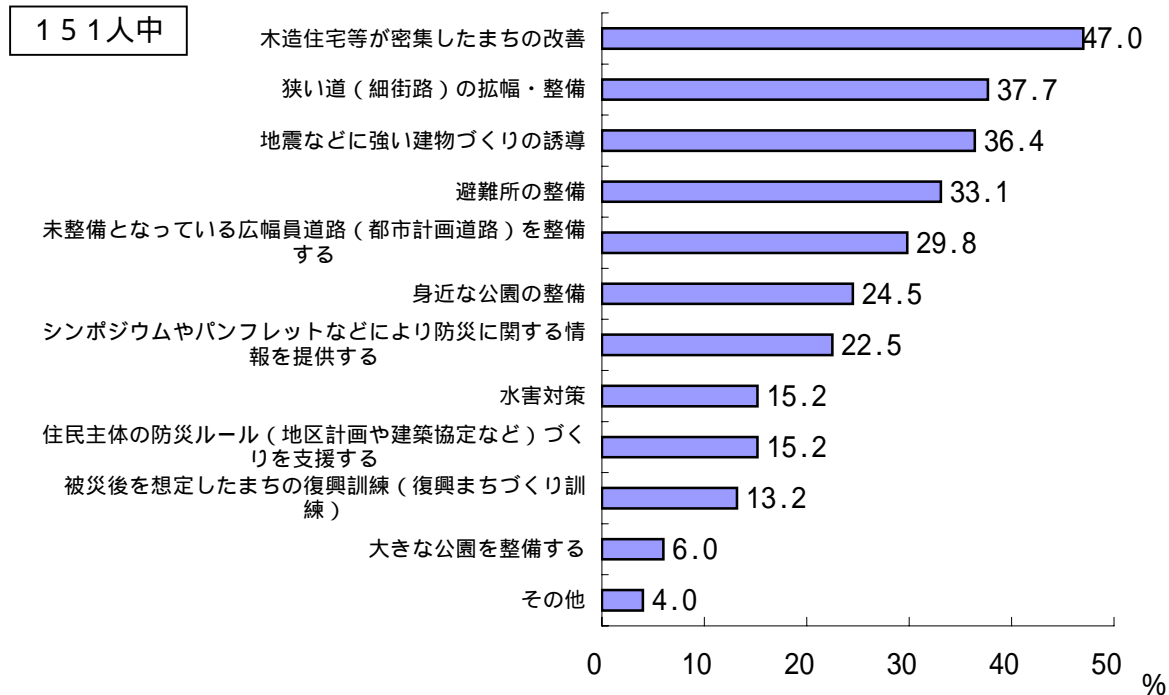
151人中



問11 問10で(1) 知っているとお答えの方にお聞きします。
住宅の耐震診断や耐震補強への支援制度を活用したことがありますか。
(__は1つだけ)



問12 今後、区が特に積極的に取り組んでいくべきだと思うものを次の中から3つ以内で選んでください。(__は3つまで)

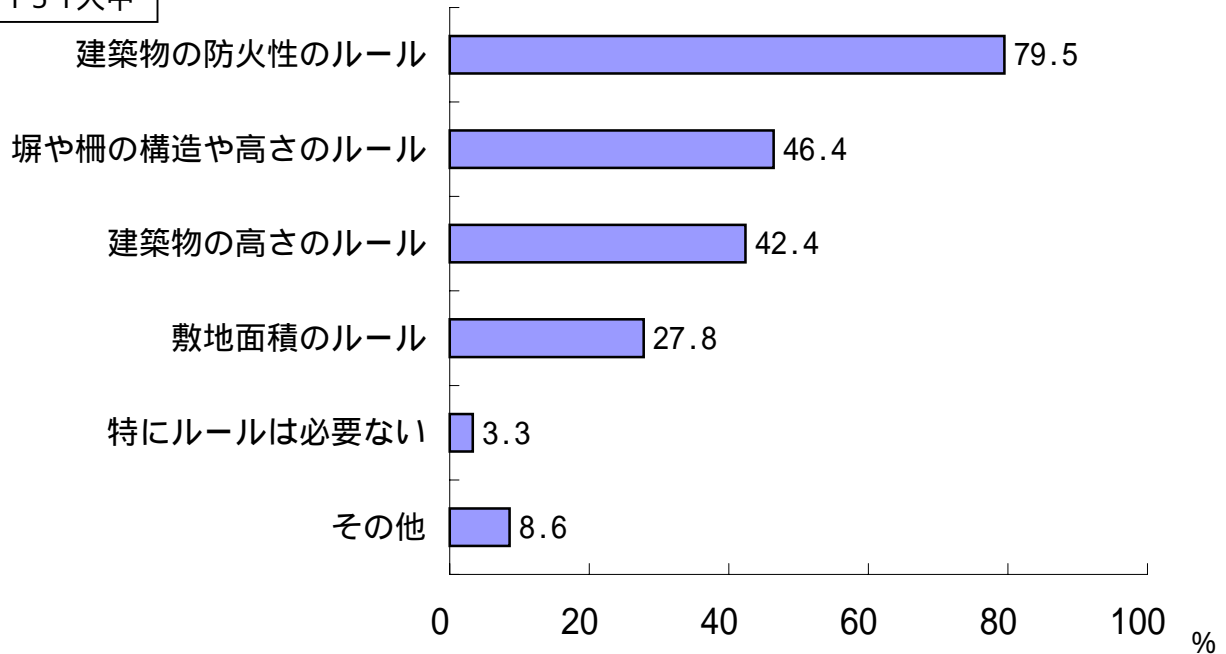


その他

・お年寄りのいる家庭や一人暮らしの高齢者の支援・災害時の情報伝達・避難所の増設・選択肢の項目全て・各自治体間の連携・身体障害者や外国人への対応・家の建てすぎの回避

問13 あなたがお住まいの地域において、防災まちづくりをしていく上で、どのようなルールが必要だと思いますか。次の中から必要と思う項目を全て選んでください。（__はいくつでも）

151人中

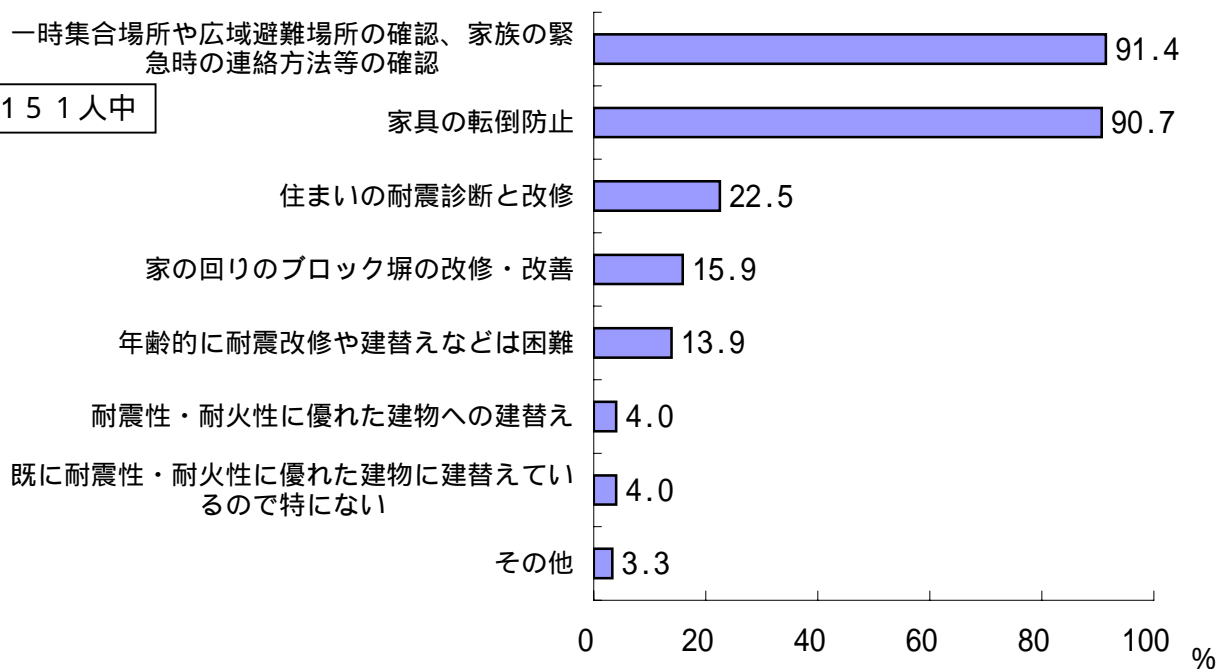


その他

・家と家の距離を空ける・水とトイレの供給・情報の収集・各自治体の連携・道幅の確保・建物の耐震性のルール・住民間の連携・エアコンの室外機の落下や窓ガラスの飛散防止・家の回りに燃えやすいものを置かない・延焼防止のための植栽のルール・家を密着させない

問14 地震対策として、あなたができることはどれでしょうか。（__は3つまで）

151人中

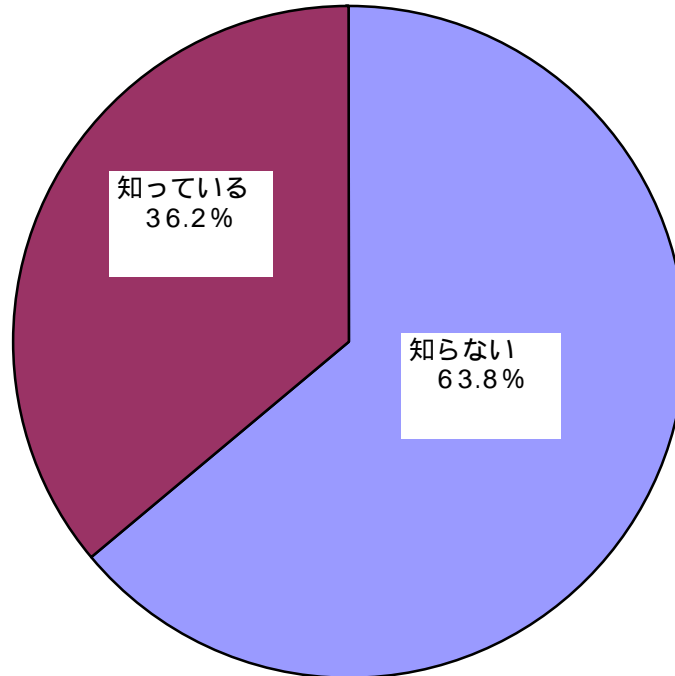


その他

・避難具や非常食の常備・地震保険に入る

問15 第一次避難所に指定された小中学校では、区民・学校・区役所の各関係者で構成された「運営委員会」が中心となり、震災に備えて日頃から防災訓練をはじめ、様々な防災活動を行っています。このことを知っていますか。
(__は1つだけ)

149人中



問16 足立区の防災まちづくりについて、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。(自由意見)

年代	性別	問14(自由意見)
20代	女性	防災訓練の回数をもっと増やしてほしい。また、区の備蓄物の数を増やしてほしい。
20代	女性	荒川の堤防が壊れたときの被害等、もしもの時に不安なので足立区全体の対策を願いたい。
20代	男性	区に住んでまだ1年ですが、公園も多く避難場所を確保しやすい街だと感じています。
20代	女性	我が家は隅田川と荒川に囲まれた地域なので河川の氾濫が気になります。うちの前にもスーパー堤防を築いてほしいです。
20代	女性	今年発生した新潟の地震をきっかけに、家族で地震について話し合った。防災まちづくりに関して、避難所がどこにあるか、トイレや水はどういう状況にあるのか知りたいです。
20代	女性	アパートに住んでおり、ずっとここには住まないから耐震対策をするのはもったいない、という思いが強い一方、もし明日大地震が起きたら、という不安もあります。こういう場合大家さんに責任があるのか、住む人の自己責任になるのか知りたいです。
20代	女性	震災時の避難所や震災時にどのようなことに困り、対処すべきか、情報の提供が必要です。
20代	男性	避難場所の周知を徹底させてほしい。
20代	女性	テレビ番組で、日本でもトップクラスの危険地帯として足立区がとりあげられており、とても不安です。備蓄食糧は足りているのでしょうか。小さい子供でも避難することを想定した防災グッズの備蓄をお願いしたいです。
20代	女性	足立区は大地震の際に液状化現象の危険性が高いとテレビで報道されていました。大地震の際に人々の命が守れるように事前に対策を立てていただきたいです。
30代	女性	区の取り組みも大事だが、近所の交流が大切だと感じています。自分にできることはすべて備えていきたいので、災害に備えてというような冊子を各家庭に配布してほしいです。また、9月の広報は毎年災害の特集をしているが、より内容を充実させてほしい。
30代	女性	一戸建てだが、かなり古い家なので無料で耐震検査をしてほしい。よくチラシが入ってくるが信頼性にかけるので区から指導してほしい。
30代	女性	区ができることと区民各々ができることをハッキリさせて、一人一人が防災の意識を高めたいと思います。また、防災や地震などに関することが気軽に聞いたり相談できる窓口があればいいと思います。
30代	女性	国や地方公共団体の役割について、その限界も含めて周知をお願いしたい。できないことはできないとハッキリ言ってほしい。その方が自分のやるべき事もわかっていいと思う。
30代	女性	区内の賃貸物件については、区から積極的に大家さん等に耐震診断、改修を働きかけてほしいです。また、個人でもできることの情報を頂けたらと思います。さらに敷地面積ぎりぎりの家が建っており火災の際に大変だろうなと思いますし、狭い道が多いので改善していただけたらと思います。
30代	女性	足立区は地盤が弱く、震災があった際大きな被害が出ると聞いたことがあります。いざ災害があった場合住民も自治体も混乱すると思いますので、一度見直すためにもマニュアルを作成し住民に配布してはいかがでしょうか。
30代	女性	電柱を少なくしてほしい。また、竹ノ塚駅の踏切を何とかしてほしい。
30代	女性	個人個人が自分のできる防災対策をすることはもちろん、近所づきあいを深めること、避難訓練を実施するなど努力は必要だと感じています。最近は近所づきあいが減り、いざとなったときに誰がいて誰がいないのかわからないのでは困る、という危機意識を持たないまま防災対策をすることなどできないのではないかと感じています。
30代	女性	私の属する町会は顔を合わせる機会が多いので結構安心感があります。やはり身近な人と交流がある地域は自然と防災の意識が高くなると思います。防災訓練も行きましたに参加する人が多かったです。
30代	女性	地震が発生した際に子供がどこへ行けばいいかなどわかるように教えてほしい。借家の場合どうしていいのわからない。近所の人と普段から話し合っておくことが大事だと思うので、それがスムーズに行くようにしてほしい。

30代	女性	北千住の駅の近くに住んでいますが、近くに公園はなく、以前第一次避難所だった中学校は大学になりました。現在どこが第一次避難所かわかりません。また、地域が混み合っているため避難所があったとしてもそこへ行くまでの道のりが危険だと感じます。
30代	女性	大地震発生を前提に、避難後の生活がどうなるか具体的な情報を提供してほしい。避難所での食糧、水、トイレ、区に何が用意できて住民が何をを用意すべきかを教えてほしい。乳幼児やお年寄りなど身動きの取れない人をサポートするボランティアの組織作りをしてほしい。
30代	女性	どこに避難するかも知らないし、どうすればいいのかわからない。どこに避難するか、その後はどういう流れになるのか、冊子を作って配ってほしい。
30代	女性	区の防災訓練などの活動が個々には知らされていない気がする。混乱を招かないよう知らせ方にも力を入れてほしい。
30代	女性	火事は防ぐことができるので火の始末は個々が責任を持ってするように心がけ、地震や水害は常日頃から近隣の地域とのコミュニケーションを大切にして助け合えるようにしたいです。区のほうでも家庭でやっておいたほうがいい事や知っておいたほうがいい事があれば広報等に載せてほしいです。
30代	女性	ニュースでは地震や水害が発生したことを報道しているのに、我が家は大丈夫という過信がどこかにある。今回のアンケートで改めて考えさせてもらう機会をいただき、私なりに意識改革をしていきたいと思いました。
30代	女性	新潟の地震を見て、耐震・耐火の建物も震度6以上になったらどうしようもないと思いました。避難場所の整備(特に食糧)に力を入れてほしい、と思います。
30代	女性	夕焼け放送など、区の放送が聞こえづらいので、いざというときのためにももう少し放送塔を増やし、どこにいても聞き取れるようにしていただきたいと思います。
30代	女性	密集地域が色々な所にあるので指導して欲しい。また消火器の使い方がわからない人が多いので使えるように指導してください。
30代	女性	防災セットなどの用意を呼びかける。また、それについて年に1回は見直しをして買い替えや買い足しをさせるようにする。
30代	男性	住民票を元に、選挙通知や住民税通知一緒に同封するとかして、各世帯に避難経路を通達してほしい。避難場所は学区域となっていることが多いですが、学区域の避難場所より近い別の学校でもいいのか、よくわかりません。
30代	女性	災害が起きてからでは遅いので、その前にどうしたらいいのかわかる国や区からいろいろ教えてほしいです。そして、地域の人と協力し合いながら、これからも自分の住んでいるところを守っていきたいです。
30代	女性	今地震などが多くなり、災害も多くなっている中、とても不安です。この辺は大丈夫だろう!!、なんて考えは捨てたいと思います。
30代	女性	やはり日頃から地震がおきたときなどに備えて心構えをもちたい。自身があったらすぐに火を止めるなどの少しの注意力が大きな火事を食い止められる、と思う。
30代	女性	家が密集しているので大地震が起きたらどうなるのだろう、という不安は常にあります。道路に面しているブロック塀はとり壊してもいいと思うのですが、どこに頼んでいいのかわからないのか、どのくらいかかるのかわからないので、なかなか自分からできないのが現状です。
30代	女性	小地域ごとに防災訓練をしてほしい。特に平日の日中、乳幼児や介護老人のいる家ではどのように避難したらいいのかわからないので指導してもらいたい。
30代	男性	地震や水害など実際に大きな被害が少ない今、防災に対する意識は薄れてしまっていると思う。区で行っている対策や実際に災害にあったときの避難場所や避難の方法、自主的にできる対策をまとめたパンフレットをつくり、区民に呼びかけてほしい。
30代	女性	防災についてあまり知らなすぎて反省しています。防災についてこれからはもっともっと訓練が必要だと感じます。くわしく広報でお知らせください。
30代	女性	防災に関する情報を広報などで提供してもらいたい。そして、防災用品などを安価で注文販売を区でやってもらえたら防災対策がよりしやすいと思う。また、避難所がよくわかるような表示や連絡があるといいと思う。
30代	女性	私が住んでいる町は「住宅街」だが最近ではアパートも建ち始めている。アパートの住民との連携も必要だと思うが、地域の回覧板を回している気配も感じず、新しい人たちを受け入れる体制も必要だと思う。自然災害には皆で助け合わねばならない事を確認しなければならぬ。

30代	女性	最近、大きな地震による被害をテレビや新聞で目にしますが、防災に対する意識がまだまだ薄いのが現状です。私個人としてどのような事に備えればいいのかかわからずにあります。ぜひパンフレットや広報で情報発信して下さいよう希望します。
30代	女性	子供が通っている区の保育園では防災訓練はよく行っていますが、建物の老朽化など地震がきたらとても心配です。対策を区でもしっかり行ってほしいと思います。
30代	男性	電柱を地下に埋めてほしい。車も通れない狭い道や老朽化した建物が多い地域の区画整理を早急に行ってほしい。
30代	女性	区に頼るだけでなく、地域住民が協力し合うことが一番大切だと思います。
30代	女性	震災への備え、震災が発生したときの避難経路の確認が大事。
30代	女性	家を密着させすぎている。隣と一緒に燃える～泥棒に入りやすいじゃない～と言っているみたい。もっとゆとりを大事にしてほしい。
40代	女性	いつ、どこで起こってしまうのか、という不安があります。関心はあるのですが、身近なようで身近ではありません。日頃から何を心がけたり、準備したりするか明確にしておくべきだと思います。足立区でしていることを区民に伝えてほしいです。
40代	女性	避難所の場所は知っているが、実際行ったことがないので、できる範囲で実際に避難所へ行ってみるような防災訓練が行えたらいいと思う。
40代	女性	今できることの順位をもっとアピールしてほしい。
40代	女性	消防車が巡回して、どこから水が出るのか、車は通れるのか確認してほしいと思います。竹ノ塚駅西口に高層マンション、西友ができたとき、訓練しているのを見かけましたが、高いビルだと消防車が届きませんね。
40代	男性	理想と住民の経済的、心情的に見たまちづくりとを折り合わせた防災まちづくりの実行を期待します。
40代	女性	自然災害と同様、人的な災害の対策を考えたい。足立区は犯罪が多い印象があります。現実に先日近所で空き巣に入られました。
40代	女性	危険物を扱う会社等や住宅や空き家等で管理されていないところは、区役所や消防等が指導すべき。公園等も管理されていない所(大きい公園でない)は区役所等で管理、整備すればきれいになり、ゴミ等を捨てたりしないのではないかな。
40代	女性	近隣とのかかわりが最も大事だと思う。
40代	女性	耐震補助制度等、まだ皆さんに知れ渡っていないのでは。家と人命を守るため耐震にもっと関心が行くようアピールを。我が家はちらしを見て診断にふみきました。
40代	女性	ケーブルテレビを見ると防災訓練をしている様子に目が留まります。この機会に区民全員の意識を高められるように工夫と努力を区でしっかりしてほしいです。マンションが最近多いので必ずしっかりと防災訓練をされるように伝えてほしいです。地域友好のためと思ってやってほしい。
40代	女性	万事に備えていたが、我が身に起きないと無関心と言うのが正直な話ではないでしょうか。きちんと各自が認識すべきです。
40代	女性	中越の地震災害の報道を見ていると、やはり古い木造で重い屋根瓦の家が倒壊しているので足立でも古い住宅チェック等が必要だと思う。
40代	女性	毎年、参加できる限り、自治会の防災訓練に出て、子どもと「何をすべきか」の確認をしています。ケガが起きてしまった時、「希望を失わずに生きていくこと」、これがこれからの課題ではないでしょうか。
40代	女性	大きな地震がきた時に、家が壊れてしまうようでは困るので、古い建物の建替え又は耐震補強を呼びかけた方がいい。
40代	女性	住宅密集地の区画整理が必要だと思う。耐震診断や耐震改修は費用の点で簡単に行えない。区がどの程度準備されているのか、各家庭が最低どれだけ準備が必要か、情報がほしい。
40代	女性	地域の高齢者、一人暮らしの方が増えているので、災害が発生したときにどれだけ手助けできるのか不安です。日頃からネットワーク作りをしていく努力、協力を考えていきたいです。
40代	女性	足立区の備蓄食糧や水は大丈夫なのだろうか。各自では準備しているが、区の備蓄分をあてにしていいのだろうか。
50代	男性	区報等で簡単なワンポイント防災アドバイスを毎回掲載し、防災の意識を高める。

50代	女性	町会で年に1回防災訓練を実施していますが、どうも他人事のように本当に我が身にいつ来るかと言う真剣みがないので、積極的に参加しようと思います。区の放送を利用して訓練として何回か放送案内を流すのはどうでしょうか。
50代	女性	道路の整備が急務です。火災にしても消防車、救急車が入る道路幅がありません。逃げるにしてもわかりづらい。
50代	女性	日々仕事に追われて町会の会合へも出席できず、どの程度防災に対して各団体の統合が進んでいるのかわかりません。町会のみならず各家庭に広報等で知らせしてほしいと思います。報告を密にしてほしい。
50代	女性	東京に地震がもしあったら大変な被害になるのはわかりきっている。もっともっと震災に備えて区は活動してほしい。
50代	女性	足立区本木、梅田、関原にもっと広い公園があるといいです。
50代	女性	災害は時間に関係なくやってきます。私自身、夜中に大きな地震が起きた場合は不安です。夜中の地震で電気がつかない場合の避難方法を検討する必要がある、と思っています。
50代	女性	新潟のような大きな地震がきたら足立区は地盤がゆるいので、特に障害をもっている方は大変だと思います。液状化現象の心配もあります。区の方でも真剣に避難場所の確保とか応援を早くしてほしいと思います。
50代	女性	以前「あだち広報」で大震災時の避難場所の変更という記事が載っていました。現在はどうかかわかりません。1年に1回でも「あだち広報」でもホームページでも広域避難場所をわかりやすく載せてほしいです。第一次避難場所もどのように知ればいいのか。意外と知らない人も多いと思います。
50代	女性	リフォームする機会があり、耐震診断をしたが、昭和57年度以降の建物には補助が出ないことが分かった。建替えや補強に補助を出してほしいとは言わないが、せめて診断くらいは補助があってもいいのではないのでしょうか。そうすれば、利用する人がたくさんいると思いますし、結果、地震に強いまちづくりができるのではないのでしょうか。
50代	女性	家具の転倒防止器具は専門的な取付工具や知識が必要な場合が多い。できれば区役所に申し込むと取付けに来てくれるようなシステムがあると良いと思います。
50代	女性	先日、新潟県柏崎市で地震がおきましたが、防災に対する行政の行政の取り組みがお粗末だったようです。すべてを行政に頼るべきではないし、対応しきれないと思いますが、当区においてはこのようなことがないように願っています。自分のことは自分で！を我が家の基本にしております。
50代	女性	一時集合場所、広域避難場所を知らない方は多いと思います。ゴミ集積所など誰もが目につく場所にステッカーを貼り、確認をさせる必要があるのではないのでしょうか。いつ地震が来るかわからないので、一度町会ごとでも避難訓練をやる必要があると思います。
50代	女性	地震が多いので、地域でもっと確認し、何かあったときにはわかるよう普段から人と人とのふれあいが大事だと思う。
50代	女性	今回の新潟県中越沖地震の状況をテレビの報道で見る限り、学校の体育館にて様子を伺いながら身の安全を図るしかないのか、と思いました。東京でこの規模の地震が起こったらパニックが起こるでしょう。そのためにも最低でも水の確保だけは各家庭で用意すべき。区でも区民の3日分の水を用意してほしい。
50代	女性	空き地や区の所有地に広域避難場所を設置し、施設内を見学したり、避難訓練、食事の炊き出しを行ったらいいのでは。真夏や真冬を想定した訓練も行う。
50代	女性	足立区は荒川の近くにあり、河川の氾濫が一番怖いです。新築の場合は基礎工事の強化と床をなるべく高くすることを心がけたらいいと思います。地震対策も家具の転倒防止ぐらいで、改修は困難です。
50代	男性	各地で地震が発生し改めて日頃の準備が必要だと痛感いたします。想定外のことが起きることを考え日頃から各自が関心を持ち続けることが大事だと思います。
50代	女性	今回の設問を通じて、日中務めていると地域の防災に関してほとんど無知であることが判った。町会を通じて日中不在者にも防災訓練ができる環境を区が指導すべきである。
50代	男性	区には震災が発生した際、避難所で対応できない高齢者、身体障害者、外国人が多いと聞いている。補強工事は大事だが、多くの自治体と連絡を取り搬送や施設の確保に取り組んでいただきたい。災害弱者の把握から始めて、ソフト面での対策も必要である。災害弱者が学校以外の避難所で薬や睡眠を取れるようにしていただきたい。

50代	女性	うちは町会に入っていないので、どこに避難したらいいのかわかりません。区役所で避難場所はどこかという案内がほしいです。
60代	女性	火事を出さないようにしたい。また、普段からの隣近所の付き合いも大切にしたいものです。
60代	男性	本木の密集地域でも最低4m道路の確保を願っています。実際にはL字を下げないので道路が少しも広く感じられません。
60代	男性	町会・自治会に未加入の場合には、安全と思う場所へ自主的に避難してもいいのでしょうか。
60代	女性	南花畑自治会の男性が夜回りをしてくださり、公園内での不注意も少なくなり安心感でいっぱいです。夜回りは遠い昔のように思えますが、日常について個人個人注意をし被害に遭わないように心がける事が大事だと思います。寝る前に周囲に燃えやすいものをおかない、ガス栓の確認等、人に迷惑をかけないことをモットーにしています。
60代	男性	行政の災害に対する取り組みは地元町会や企業の協働なくして有効な対応は望めません。年何回か地区毎に検討する場をつくって周知すること、町会の中で検討する場を設けさせることが大事です。住んでいる環境の中で何をすべきか、何ができるかを考えることが大切。そのアクションはなく、区の言っている事も伝わっていないです。
60代	男性	耐震診断の助成について、限度額が10万円となっているが、限度額を超えて本人負担が1割程度になるような制度をつくってほしい。昭和56年5月以前ではほとんどが高齢者であり、負担が大きすぎる。防災生活圏整備の推進は町会等を通じて周知を図ってほしい。
60代	女性	防災まちづくりをする以上、必要以上に個人の権利を尊重するのではなく、防災は生命に関わることであり、全区民の問題であるから、全体と個人の権利のバランスを考えて防災まちづくりが行われるべきだと思います。
60代	女性	新潟県中越沖地震を他人事と考えずに、日々注意しなければならない、と思う。
60代	男性	災害を想定した場合の緊急時の体制のうち、特に資材の備蓄状況、避難場所の収容人員、予算の執行状況、区で独自の対応が無理な場合の他自治体との提携について、広報などを通じて区民への理解を積極的に促す必要である。
60代	女性	防災生活圏整備があることを知らなかった。知ってよかった。近隣の人同士で一声掛け合うことが大事。場所によってはお年寄りが多いところがあるからです。
60代	男性	防災まちづくりは区や都が主導でよろしくお願ひしたいものです。私は町会の役員をしていますが、防災に関しては進展がもう1つようです。
60代	女性	足立区、特に西新井栄町地区は道路が狭く家屋がすく込み合っていて、昔のままの一方通行が多く、再開発が行われ一部良くなるでしょうが、今が心配です。避難場所まで行かれるか心配です。
60代	女性	災害時でも道路が通行しやすいように、標識等をなるべく細かく設置してほしい。区の放送等が良く聞こえるようにしてほしい。
60代	女性	家族全員が一緒にいるときはいいが幼稚園、学校又は地域外の学校へ行っている子供たちはどうするのか、と各家庭で話し合っているだろうか。地域別のマスタープランをつくってほしいです。
60代	男性	近くに荒川・隅田川・中川と大きな河川があるので水害対策が必要です。
60代	男性	直下型地震や水害などで不安と心配があります。地域における支援活動と協働は大切です。町会活動と防災訓練で意識を高めるとともに近隣住民との互助意識と連携した行動が肝要です。そのために支援組織体制づくりと正確な情報伝達手法の確立について、区民と共助することを望みます。
60代	男性	昔の農道の名残なのか、行き止まりや狭い道が多く見受けられます。区画整理等どんどん進めてほしい。
60代	女性	足立は広く、その為住んでいないところ、行き止まりのところの家が多すぎる。建替えのできない場所があり、その反面で高層マンションが建っている。何かあったときにはどうするのか。お年寄り、病気の人、足の悪い人、単身者、もう少し身近なところから活動を始めるべきだと思います。
70代	女性	各家庭に避難場所の位置を印刷して配布するとういと思っています。
70代	男性	毎回避難所運営訓練に参加していますが、参加者に高齢者が多く、一時避難場所まで行けるかという課題があります。災害はいつどのような形で起こるか判りません。近隣の自治体との連携体制の確立と、災害状況を早くつかみ救援活動を進めていくためのフローチャートを作ることが急務でしょう。

70代	女性	地震の予知情報を早く知らせてほしい。舗道が狭いのに植栽が多いので道路を整備し拡幅してほしい。綾瀬川や荒川の堤防は大丈夫か、橋は、鉄橋は安全か。防災生活圏整備について広報誌で知らせてほしい。
70代	女性	防災訓練、防災活動を運営委員会が行っていることは知りませんでした。防災訓練は区民全員が行っていないと災害があった際どうしたらいいかわかりません。高齢者、障害者の避難はどうするのか、自治会、町会などが中心となり区民全員が参加して訓練を行うべきです。
70代	男性	・液状化現象をもたらす地盤調査も必要。・小中学校は第一次避難所となっている以上、AEDの設置を望みます。・子供から大人まで体験できる防災公園があってもいい。・平日に大地震が発生した場合、小中学校は避難場所となるので、生徒を避難させなければならない教職員の対応に限界が生じる。この対応を検討すべき。
70代	男性	防災訓練は大事ですが・・・塀、特にブロック塀の高さや年数の経たアパートのような木造家屋の調査を行うべきである。
70代	女性	近所は空き家ばかりで高齢者も多く、防災まちづくりとはどのようなものか判断しかねる。隣近所との語り合いもなく、町内会でそのようなまちづくりの説明もない。(災害発生の際は)荒川に行くように言われているが、首都高速が頭上にあり、そのときでなければどのようにするのか判断しかねます。
70代	男性	避難所運営訓練の活動があることは知っているが、その訓練の方法、規模、効果等、住民への周知が必要だと思います。ただ訓練を行いましたという結果報告のみではないか、と思います。住民の積極的な参加、関与を促すのも必要だと思います。
70代	女性	新潟の地震でたくさんの方が被災なされましたが、小さな木造家屋の多い足立は特に一人一人が防災を自分のこととして捉えてできることに挑戦することが大切だと思います。中野区ではバス停にも、避難場所は 高校です、と書いてあるのですが、足立区では見たことがありません。
70代	女性	一時集合場所は近くていいのですが広域避難場所は遠いのもう少し近いところがあればいいと思います。役には立たないと思いますが防災訓練はしたほうがいいと思います。私の住んでいるところはブロック塀の崩れそうなところがあります。改修していただけるとありがたいです。
70代	男性	広域避難場所、第一次避難所を、各域の町会・自治会は周知徹底させ、図面を至急に各家庭に配布する。
70代	男性	当区の防災等の情報はなく、緊急時の避難場所すらわからない。情報の伝達を速やかにしてほしい。
70代	女性	14階建ての団地に住んでいます。この建物自体の耐震性がどの程度あるのか全くわかりません。都市基盤整備公団から独立行政法人としての都市再生機構に移っても耐震強度についての情報は全く入っておりません。高年齢化しているので、いざというとき混乱するのではないかと今から心配です。

集 計 表

(%)

「足立区の防災まちづくりについて」	全員	性別		年齢別	
		男	女	40歳未満	40歳以上
回答者数(人)	151	32	119	63	88
問1 防災への関心度	N = 1 5 1				
(1)ある	96.7	96.9	96.6	93.7	98.9
(2)ない	3.3	3.1	3.4	6.4	1.1
問2 住んでいる地域の安全度	N = 1 5 1				
(1)安全	2.0	9.4	-	-	3.4
(2)どちらかといえば安全	17.9	18.8	17.6	14.3	20.5
(3)安全とも危険ともいえない	28.5	21.9	30.3	28.6	28.4
(4)どちらかといえば危険	32.5	31.3	32.8	30.2	34.1
(5)危険	12.6	12.5	12.6	14.3	11.4
(6)わからない	6.6	6.3	6.7	12.7	2.3
回答者数(人)	68	14	54	28	40
問3 住んでいる地域の「危険」とは(複数回答)	N = 6 8				
(1)地震	92.6	100.0	90.7	92.9	92.5
(2)津波	1.5	-	1.9	3.6	-
(3)河川の氾濫	50.0	42.9	51.9	46.4	52.5
(4)浸水	20.6	28.6	18.5	21.4	20.0
(5)高潮	-	-	-	-	-
(6)大規模な事故	20.6	14.3	22.2	17.9	22.5
(7)火災	63.2	85.7	57.4	50.0	72.5
(8)その他	2.9	-	3.7	3.6	2.5
回答者数(人)	150	32	118	63	87
問4 足立区で危険と思われる地域(複数回答)	N = 1 5 0				
(1)千住地域	77.3	78.1	77.1	79.4	75.9
(2)興野・本木地域	30.0	43.8	26.3	14.3	41.4
(3)梅田地域	30.0	43.8	26.3	17.5	39.1
(4)中央本町地域	8.0	6.3	8.5	7.9	8.0
(5)綾瀬地域	28.0	25.0	28.8	30.2	26.4
(6)竹の塚地域	12.0	6.3	13.6	14.3	10.3
(7)伊興・西新井地域	18.7	18.8	18.6	11.1	24.1
(8)その他	12.0	6.3	13.6	15.9	9.2
回答者数(人)	151	32	119	63	88
問5 地域防災拠点の認知度	N = 1 5 1				
(1)知っている	70.2	78.1	68.1	55.6	80.7
(2)知らない	29.8	21.9	31.9	44.4	19.3

集 計 表

(%)

「足立区の防災まちづくりについて」	全員	性別		年齢別	
		男	女	40歳未満	40歳以上
回答者数(人)	150	32	118	63	87
問6 状況に応じた避難の仕方の認知度 N = 1 5 0					
(1)一時集合場所に集まることは知っている	40.7	25.0	44.9	47.6	35.6
(2)いざとなったら、一時集合場所から広域避難場所に避難することは知っている	30.7	43.8	27.1	20.6	37.9
(3)避難生活を必要とする際の第一次避難所などのことも知っている	8.7	12.5	7.6	4.8	11.5
(4)まったく知らない	20.0	18.8	20.3	27.0	14.9
回答者数(人)	120	26	94	46	74
問7 状況に応じた避難の仕方について知ったきっかけ N = 1 2 0					
(1)町会・自治会	47.5	50.0	46.8	34.8	55.4
(2)あだち広報	33.3	42.3	30.9	32.6	33.8
(3)区ホームページ	0.8	-	1.1	-	1.4
(4)その他	18.3	7.7	21.3	32.6	9.5
回答者数(人)	151	32	119	63	88
問8 防災生活圏整備の計画の認知度 N = 1 5 1					
(1)知っている	7.3	9.4	6.7	4.8	9.1
(2)知らない	92.7	90.6	93.3	95.2	90.9
問9 大地震への備えとして、誰が何を行うべきか N = 1 5 1					
(1)常に区が主体となって誘導すべき	21.9	15.6	23.5	27.0	18.2
(2)公共施設整備は区が、建物の不燃化等は住民が責任を持って行う	29.1	46.9	24.4	20.6	35.2
(3)区ができることとできないことを明確にし、住民がなすべきことは何か伝える	49.0	37.5	52.1	52.4	46.6
(4)その他	-	-	-	-	-
問10 住宅耐震診断や耐震補強支援制度の認知度 N = 1 5 1					
(1)知っている	33.8	34.4	33.6	15.9	46.6
(2)知らない	66.2	65.6	66.4	84.1	53.4
回答者数(人)	50	11	39	10	40
問11 住宅耐震診断や耐震補強支援制度の活用度 N = 5 0					
(1)耐震補強を行った	2.0	-	2.6	-	2.5
(2)耐震診断のみ受けた	14.0	9.1	15.4	10.0	15.0
(3)耐震補強に費用がかかるので利用していない	46.0	54.5	43.6	50.0	45.0
(4)我が家には必要ない	38.0	36.4	38.5	40.0	37.5
回答者数(人)	151	32	119	63	88
問12 今後区に希望する取組み(複数回答) N = 1 5 1					
(1)未整備となっている広幅員道路(都市計画道路)を整備する	29.8	28.1	30.3	34.9	26.1

集 計 表

(%)

「足立区の防災まちづくりについて」	全員	性別		年齢別	
		男	女	40歳未満	40歳以上
(2)大きな公園を整備する	6.0	3.1	6.7	6.4	5.7
(3)木造住宅等が密集したまちの改善	47.0	53.1	45.4	38.1	53.4
(4)地震などに強い建物づくりの誘導	36.4	25.0	39.5	44.4	30.7
(5)身近な公園の整備	24.5	46.9	18.5	23.8	25.0
(6)被災後を想定したまちの復興訓練（復興まちづくり訓練）	13.2	6.3	15.1	6.4	18.2
(7)避難所の整備	33.1	43.8	30.3	30.2	35.2
(8)狭い道（細街路）の拡幅・整備	37.7	31.3	39.5	39.7	36.4
(9)水害対策	15.2	12.5	16.0	15.9	14.8
(10)住民主体の防災ルール（地区計画や建築協定など）づくりを支援する	15.2	15.6	15.1	14.3	15.9
(11)シンポジウムやパンフレットなどにより防災に関する情報を提供する	22.5	25.0	21.8	20.6	23.9
(12)その他	4.0	3.1	4.2	4.8	3.4
回 答 者 数 (人)	151	32	119	63	88
問 1 3 防災まちづくりをしていく上で必要なルール	（複数回答）				N = 1 5 1
(1)特にルールは必要ない	3.3	3.1	3.4	3.2	3.4
(2)建築物の防火性のルール	79.5	71.9	81.5	79.4	79.5
(3)建築物の高さのルール	42.4	46.9	41.2	38.1	45.5
(4)敷地面積のルール	27.8	40.6	24.4	23.8	30.7
(5)塀や柵の構造や高さのルール	46.4	46.9	46.2	38.1	52.3
(6)その他	8.6	9.4	8.4	4.8	11.4
問 1 4 地震対策としてできること	（複数回答）				N = 1 5 1
(1)一時集合場所や広域避難場所の確認、家族の緊急時の連絡方法等の確認	91.4	93.8	90.8	87.3	94.3
(2)家具の転倒防止	90.7	87.5	91.6	90.5	90.9
(3)家の回りのブロック塀の改修・改善	15.9	21.9	14.3	17.5	14.8
(4)住まいの耐震診断と改修	22.5	21.9	22.7	17.5	26.1
(5)耐震性・耐火性に優れた建物への建替え	4.0	3.1	4.2	4.8	3.4
(6)年齢的に耐震改修や建替えなどは困難	13.9	18.8	12.6	6.4	19.3
(7)既に耐震性・耐火性に優れた建物に建替えているので特でない	4.0	-	5.0	3.2	4.5
(8)その他	3.3	-	4.2	6.4	1.1
回 答 者 数 (人)	149	31	118	63	86
問 1 5 避難所運営委員会の活動の認知度	（複数回答）				N = 1 4 9
(1)知っている	36.2	41.9	34.7	25.4	44.2
(2)知らない	63.8	58.1	65.3	74.6	55.8

問 1 6 は記述回答のため割愛